

令和 5 年 6 月 5 日現在

機関番号：32686

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2021～2022

課題番号：21K20189

研究課題名（和文）STEM専門職におけるキャリア展望のジェンダー差の規定要因の解明

研究課題名（英文）Determining Factors of Gender Differences in Career Opportunities in STEM Professions

研究代表者

池田 岳大（IKEDA, Takehiro）

立教大学・社会情報教育研究センター・助教

研究者番号：90909996

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、大学生、および若年労働者へのweb調査を実施することで、STEM専門職で働く労働者のキャリア志向とSTEM専門職に対する職業イメージについての検討を行うことを目指した。これまでの性別職域分離構造研究で注目されてきた男性職、女性職に関する賃金・報酬構造に代表される物質的評価を検討するだけでなく、職業イメージなどの象徴的評価の検討によって、性別職域分離構造が維持されるメカニズムを明らかにすることを目指した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、特に性別職域分離が生じるメカニズムやその帰結を考える研究として重要な知見を与えることに意義を見出す。これまでの性別職域分離研究では、とりわけその構造的趨勢を捉えるような研究、あるいは賃金や報酬などの物質的評価を検討することで、男性職、女性職における諸格差を捉える研究の蓄積がある。一方で、男性職、女性職に関する職業イメージなどの象徴的評価を捉えるような視点の研究は少なく、意識の性差がその後のキャリア形成とどう関連するのか、という点を検討したことが本研究の大きな特徴であるといえる。

研究成果の概要（英文）：In this study, we investigate the career orientation of STEM workers and their job image toward STEM professions by conducting surveys of university students and young workers.

In addition to examining the material evaluation represented by the wage or compensation structure of male and female occupations, which has been the focus of previous research on the segregation of gender occupational areas, we also examine symbolic evaluations such as job image, etc. We aimed to clarify the mechanism by which the separation structure is maintained.

研究分野：社会学

キーワード：性別職域分離 キャリア

## 1. 研究開始当初の背景

本研究では、いわゆる STEM 専門職を中心に、性別職域分離構造の特徴の把握とキャリア展望に関する性差を検討することを目指す。STEM は科学 (Science)、技術 (Technology)、工学 (Engineering)、数学 (Mathematics) の頭文字を取った職業である。これらの分野に女性比率が少ない性別職域分離の問題が指摘され、なぜ女性が増えないのか、その要因を探索するとともに性別職域分離構造の特性を把握することを目指してきた。とりわけ社会階層論では、各職業の階層的布置の検討を進めてきた経緯があり、本研究もこうした研究を背景としている。

## 2. 研究の目的

先行研究では、STEM 専門職における性別職域分離構造が生じる要因として、STEM 専門職をはじめとした男性 (女性) 占有専門職における社会階層格差のうち、特に賃金の性差をはじめとした物質的評価に着目した研究が多い。一方で、男性 (女性) 占有専門職における職業イメージやキャリア展望をはじめとした象徴的評価の性差についての研究蓄積が少ない。たとえば、男性 (女性) が女性 (男性) 占有専門職に対してネガティブなイメージを持っているなど、ある職業や働き方に関する象徴的評価がジェンダー化されている場合、性別職域分離構造が維持・再生産される可能性が懸念される。加えて、女性占有専門職への男性の進出がより遅れていることを踏まえると、女性占有専門職についての検討を進めることが重要となる。

そこで本研究では、職業威信スコアにみる、STEM 専門職のイメージの性差や、その後のキャリア展望の性差について検討することを目指す。特に日本の労働市場は、新規学卒一括採用が中心となっている労働市場であることに加え、近年、若年層を中心に性別職域分離構造の弱体化が生じていることを踏まえて、大学生や若年労働者に焦点を当てる。

## 3. 研究の方法

本研究では、量的調査によって研究目的を達成することを目指した。具体的には、調査対象者を大学生並びに若年労働者に限定した WEB 調査を実施した。質問項目としては、基本的な社会的属性に加えて大学での専攻分野やキャリア展望、所得している資格、さらには職業威信スコアを算出するために用いられることの多い、複数の職業に対する職業イメージについての質問を行った。

本研究で職業イメージを評価するにあたり、評価する側、評価される側双方の性別を考慮することが特徴となる。評価する側とは回答者の性別のことで、評価される側とは「男性医師」「女性医師」などのように、当該職従事者の性別情報を付与したものである。これにより、回答者の性別と当該職従事者の性別の組み合わせによる職業威信スコアを比較することができる。加えて、本研究では、1人の回答者が「男性医師」か「女性医師」か一方の性別のみを評価する調査票と、「男性医師」「女性医師」双方を評価する調査票をそれぞれ用意している。それにより、男女の評価に対して「望ましきバイアス (性別によらず公平な評価を下すべきという判断)」が生じないか検討することを方法

### 本研究の調査票の例

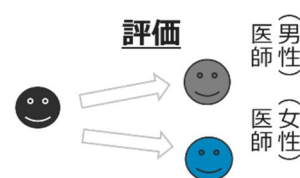


図1 論的な

特徴として設定した (図 1)。まず、大学生を対象として分析を進めた。調査協力者は WEB 調査から有意抽出されたサンプルであるため、学校基本調査 2021 年を参考に、性別、専攻分野、都道府県でウェイト補正をかけた上で分析を試みた。

## 4. 研究成果

### (1) 結果と考察

男性占有専門職の中でも医師に対する象徴的評価に関しては明確な性差はみられなかった。一方で、女性占有専門職の中でも看護師、あるいは歯科医師などは、男性よりも女性から高く評価され、職業イメージの性差がみられた。また、女性職に従事する人の中でも男性看護師と女性看護師に対する評価は異なっており、女性職に従事する男性が過小評価されやすい傾向にあり、とりわけ男性回答者が男性看護師を過小評価している傾向にある (図 2)。

加えて、「望ましきバイアス」を検討した結果、性別によらず公平な評価を下す、というよりもむしろ当該職に従事する男女の評価の高低を明確に分ける傾向が高まったことも確認された。

また、医学部分野とそれ以外の分野とで職業威信スコアが異なるか分析した所、専攻分野による影響は確認されず、医学部分野に水路づけられることが必ずしも職業の象徴的価値の醸成にはつながらないことも確認された (図 3)。

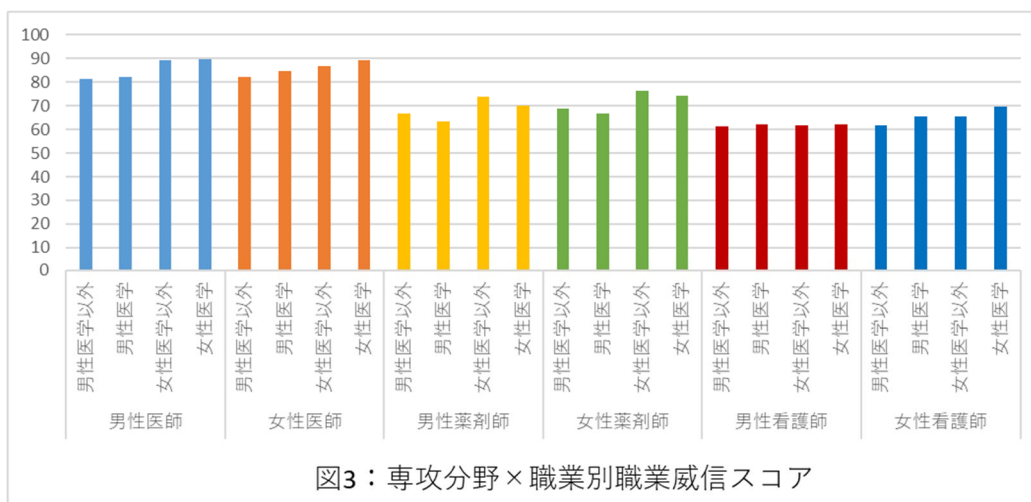
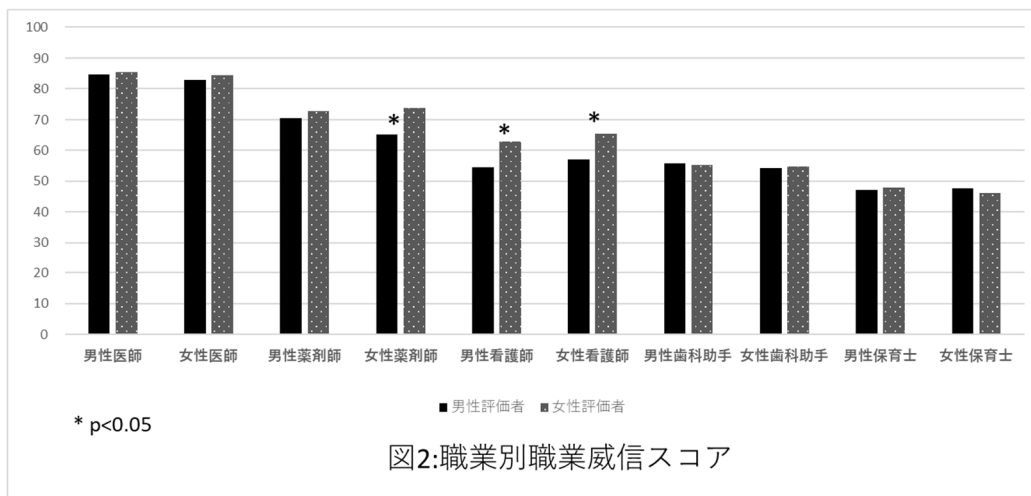
本研究を devaluation 論に基づき考察を行う。devaluation 論は女性の職業や働き方などに対する価値観がある社会の中で過小評価されており、それゆえに性別職域分離構造が解消されないことを問題としているが、特に看護師に代表される女性占有専門職ではこの論に基づく説明が一部整合的であることが指摘できる。しかし、単に女性占有専門職それ自体が過小評価されているというよりも、「女性職」に就く男性が過小評価されており、いわゆる内集団バイアス論から派生した「非羊効果」が確認された。つまり、逸脱した集団を過小評価するという構造がみられ、これにより女性占有専門職の性別職域分離構造が維持・再生産される可能性が予想される。一方、近年女性比率が上昇傾向にある医師に代表される男性占有専門職においては、こうした考察を補強するものとなる。

(2) 今後の課題

以上までの研究結果を踏まえて、今後の課題について触れる。第1の課題は、上記までの結果を特に若年労働者との比較検討を進めていくことにある。つまり、労働市場に参入して様々な職業キャリアを形成することによって、職業的評価がどのように変化し、醸成されていくのか検討できよう。

第2の課題は、職業に対する象徴的評価に関する性差を説明するメカニズムについて検討していくことにある。とりわけ女性占有専門職の中でも男性看護師に対する男性が過小評価されやすい傾向を説明するために、例えば個人の性別役割分業意識や社会階層的地位との関連について検討していくことが社会階層論的視点に基づく研究としては重要となる。さらには、本研究では、職業の象徴的評価を判定する際の基準、つまり当該職の収入や、求められる学歴など職業の高低を評価する際に重視した基準についても尋ねているため、まずは性別や専攻分野によって評価の際に重視する基準がどう異なるのか確認した上で評価基準が各職業の評価に及ぼす影響の大きさについても検討を加えていき、各集団の持つ職業イメージを鮮明に描いていくことが重要となろう。

第3の課題は、今後のキャリアパスへの影響について検討することにある。具体的には各職業に関する評価の高低が、当該職への入職希望、あるいは当該職でのキャリア継続にどのように関連しているか検討していくことを考えている。性別職域分離構造の解消を進めていくには、性構成比が不均衡な職業の解消が重要であるため、単なる職業イメージだけにとどまらず、そうしたイメージの違いが、男性(女性)が女性(男性)占有職の選択をとどまらせるトリガーとなりうるのか検討していくことも求められよう。



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 池田岳大
2. 発表標題 大学生の医療・福祉関連専門職へのイメージ 職業威信スコアにみるジェンダー構造 -
3. 学会等名 保健医療社会学会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------